研　究

妊娠先行結婚の育児期における母親の対児感情，母親役割意識と行動，および夫婦関係に及ぼす影響

盛山　幸子，島田三恵子

〔論文要旨〕

妊娠先行結婚をした母親の産後の児への愛着，母親役割行動，夫婦関係への影響の有無を検討した。産後１か月，３か月の夫婦を対象に横断調査し，産後１か月の母親69名と夫59名，３か月の母親87名と夫77名から有効な回答を得た。その結果，妊娠先行群の母親の児へ愛着は対照群との差がなかった。母親役割行動合計得点は対照群との有意差はなかったが，産後１か月では対照群よりも児の生活リズムを大人の都合に合わせる傾向があり，産後３か月では授乳や栄養に気を使うことが対照群よりも少なかった。妊娠先行群の母親の夫への愛情は産後３か月では対照群よりも有意に低く，特に25歳未満の妊娠先行結婚群の夫婦関係は夫，妻ともに低かった。

Key words：妊娠先行結婚，育児期，対児感情，母親役割行動，夫婦関係

Ⅰ．緒　　言

現在，わが国では結婚の前に妊娠が先行する結婚形態（以下「妊娠先行結婚」）が増加しており，概ね各年齢層で増加傾向にあるが，特に年齢層が若くなるほど多くなっている[1]。先行研究では，日本では時期を誤った妊娠が21％，望まない妊娠が５％ある[2]とされており，海外でも，意図しない妊娠は20歳未満の若い妊婦に多く[3]，時期を誤った妊娠は30～35％，望まない妊娠は４～５％である[4~6]。そして，計画外妊娠や意図しない妊娠，望まない妊娠に関して，人種や年齢，婚姻形態，家庭の経済状況などの要因が先行研究により明らかにされている[3~8]。望まない妊娠では，妊娠期に限らず産後にもストレスや抑うつ状態になりやすく[7]，望んだ妊娠かどうかが産後の愛着に影響すること[9]，子育て中の乳幼児虐待も社会問題化してきている中で，望まない妊娠が危険因子の１因子としてあげられており[10,11]，ネグレクトの１つである子どもを無視する行動は，母親役割肯定意識が低い人，否定意識が高い人にその傾向が見られたとの報告もある[12]。さらに，望まない妊娠をした母親の特徴として，未婚であること[3,5]や親や本人の離婚歴があることが報告されており[8]，意図しない妊娠には，パートナーが妊娠を望んでいないことが関連していることからも[5]，妊娠先行結婚をした夫婦の夫婦関係にも注目する必要がある。つまり，妊娠先行結婚は予期しない妊娠であることも考えられるため，児への愛着形成や母親役割の獲得，良好な夫婦関係の維持においても懸念される。

そこで，本研究は妊娠先行結婚における育児期の母親の対児感情，母親役割獲得，および夫婦関係への影響を明らかにすることを目的として本調査を行った。

Feelings toward Babies, Maternal Behavior and Marital Relations in Women whose Pregnancy Preceded their Marriage after Childbirth
〔2211〕
受付 10. 2.18
採用 10.12.24
Sachiko Seiyama, Mieko Shimada
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻（助産師/研究職）
別刷請求先：鈴木幸子　岐阜大学医学部看護学科母子看護学講座　〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1-1
Tel/Fax：058-293-3254

Presented by Medical*Online

Ⅱ．研究方法

1．対　象

産後1か月，産後3か月にそれぞれ異なる母親とその夫に対し，横断的に調査した。大阪府内の総合病院の外来，および同区内の保健福祉センターの3か月乳児健康診査（以下「乳児健診」）に来所した初産の母親で，調査協力に同意の得られた産後1か月の母親178名，および産後3か月の母親237名に調査票を配布した。

そのうち，産後1か月の母親69名（有効回答率38.8%）とその夫59名（有効回答率33.1%），および産後3か月の母親87名（有効回答率36.7%）とその夫77名（有効回答率32.5%）を対象とした。

2．調査方法

1）調査施設

大阪市内の総合病院であるY病院，同市同区の保健福祉センター

2）対象者の抽出方法

上記の施設の健康診査受診時に，対象となる母親に対し調査協力依頼文書を用いて研究の概要を説明し，研究協力を依頼した。そして，研究参加の意思を示した母親に対し調査票を配布した。夫への調査協力依頼文書と調査票は母親が持ち帰り，自宅で夫に任意回答してもらった。回収は病院では留置き法と郵送法のどちらかを対象者が選択し，保健福祉センターではすべて郵送法とした。

3）調査内容

母親の調査項目は対象の属性および背景，計画妊娠の有無，妊娠判明時の気持ち，出産満足度，対児感情評定尺度，母親役割行動の項目および夫婦関係尺度である。夫の調査項目は計画妊娠の有無，妊娠判明時の気持ち，対児感情および夫婦関係尺度である。

(1) 対児感情

花沢が開発した対児感情評定尺度[13]を使用した。28項目からなり，児に対する愛着的感情・肯定し受容する方向の感情を接近感情，嫌悪的感情・児を否定し拒否する方向の感情を回避感情としており，信頼性・妥当性が確認されている。採点は「非常にそのとおり」を3点，「そのとおり」を2点，「少しそのとおり」を1点，「そんなことはない」を0点とし，接近感情14項目の合計得点から接近得点を，回避感情14項目の合計得点から回避得点を求めた。また，回避得点を接近得点で除した拮抗指数を求めた。拮抗指数は指数が高いほど両感情は強く拮抗しあっていることを表す。

(2) 母親役割行動項目

平尾ら[14]の母親行動の項目を参考とし作成した。項目の修正や追加は，助産学研究者に指導を受けながら行うとともに，項目の内容妥当性については助産学研究者と助産学領域の大学院生3名で検討した。「しない（ならない）」～「よくする（よくなる）」の4段階17項目とした。項目ごとに1点～4点とし，点数が高いほど母親役割行動がとれていると捉えた。なお，逆転項目3項目については「しない」4点，「よくする」1点とし得点を算出している。本研究の対象者におけるcronbachのα係数は0.802であった。

(3) 夫婦関係

菅原のMarital Love Scale[15,16]を使用した。Marital Love Scaleは，夫婦間の愛情と親密性の評価として作成されており，妻と夫の両方からの測定が可能であるため用いることとした。内容は10項目からなり，尺度の信頼性・妥当性が確認されている。評定は1「全くあてはまらない」～7「非常によくあてはまる」の7段階である。合計得点は10点から最高70点で，得点が高いほど妻は夫への，夫は妻への愛情が高いことを表す。

4）分析方法

分析は，社会統計ソフトSPSS12.0J for Windowsを用いて行った。妊娠先行結婚群（以下「妊娠先行群」）と結婚後妊娠群（以下「対照群」）との比較の際，度数の比較にはχ^2検定またはFisherの直接確率を用い，2群の平均値の比較には対応のないt検定を用いた。また，産後1か月，産後3か月の2時期の平均値の比較の際は対応のないt検定を行った。さらに，妊娠先行結婚は増加傾向にあり，特に年齢層が若くなるほど多く，25歳未満で妊娠先行結婚の割合が半数以上を占めるため，年齢区分の基準を25歳とし，25歳未満と25歳以上の年齢区分による分析も行った。

3．倫理的配慮

母親とその夫それぞれに調査協力依頼文書を作成し，調査者の氏名・連絡先・研究の趣旨および匿名性を確保する旨等を表記し調査依頼時に使用した。調査の趣旨については調査協力依頼文書を用いて口頭で直接説明し，同意を得た母親とその夫に対して調査票と

Presented by Medical*Online

返信用封筒を手渡した。回収は病院では留置き法あるいは郵送法を対象者が選択し，保健福祉センターに関してはすべて郵送法とした。また，本研究は大阪大学保健学科倫理委員会，Y病院倫理委員会の承認を得て実施した。

Ⅲ．結　　果

1．妊娠先行群と対照群の内訳

産後1か月，および産後3か月の母親の，妊娠先行群はそれぞれ20名（29.0%），20名（23.0%）であった。対照群はそれぞれ49名（71.0%），67名（73.0%）で，平均74.4%であった。これら2時期における妊娠先行群の割合に有意差は認められなかった。夫も同様の割合であった。

2．対象の属性（表1）

産後1か月，3か月とも，対照群よりも妊娠先行群の母親の年齢は有意に若かった（$p<0.05$，$p<0.001$）。産後1か月の母親ではその他の項目（就業の有無，妊婦健康診査（以下「妊婦健診」）受診回数，分娩様式，学歴）では2群に有意差は認められなかった。産後3か月では学歴において結婚後妊娠群の方が有意に高く（$p<0.05$），児体重が有意に低く（$p<0.05$），それ以外の項目は産後1か月と同様の結果であった。

3．家族の背景（表2）

産後1か月，3か月とも，夫の年齢はそれぞれ対照群との有意差があり，妊娠先行群の方が有意に若かった（$p<0.01$，$p<0.05$）。産後1か月，産後3か月の家族形態と夫の職業・学歴には有意差が認められなかった。

4．援助者

産後の援助者について，産後1か月では妊娠先行群10名（55.6%），対照群26名（54.2%）が夫としてお

表1　対象の属性

	（産後1か月の母親）				（産後3か月の母親）			
	妊娠先行群 (n=20)	結婚後妊娠群 (n=49)	合計 (n=69)	有意差	妊娠先行群 (n=20)	結婚後妊娠群 (n=67)	合計 (n=87)	有意差
年齢（平均±SD）	27.7±6.0	31.1±4.1	30.3±5.0	*	26.7±3.9	30.6±3.7	29.6±4.2	***
(range)	(20～39)	(24～45)	(20～45)		(21～36)	(22～39)	(20～39)	
就業の有無								
仕事あり	8(40.0%)	15(30.6%)	23(35.2%)	n.s.	2(10.0%)	17(26.2%)	19(21.8%)	n.s.
仕事なし	12(60.0%)	34(69.4%)	46(64.8%)		18(90.0%)	48(73.8%)	66(78.2%)	
合　計	20(100.0%)	49(100.0%)	69(100.0%)		20(100.0%)	65(100.0%)	87(100.0%)	
健診回数(平均±SD)	13.3±3.7	12.6±2.8	12.8±3.0	n.s.	13.4±2.3	13.7±2.6	13.5±2.6	n.s.
(range)	(9～25)	(3～18)	(3～25)		(9～17)	(8～20)	(8～20)	
健診回数(平均±SD)	37.7±3.4	37.0±3.6	37.1±3.5	n.s.	3.5±0.5	3.7±0.5	3.6±0.5	n.s.
(range)	(32～44)	(28～49)	(28～49)		(3～ 4)	(3～ 5)	(3～ 5)	
健診回数(平均±SD)	39.4±1.9	38.5±3.1	38.7±2.8	n.s.	39.6±1.2	38.6±2.2	38.8±2.1	n.s.
(range)	(33～42)	(24～41)	(24～42)		(38～42)	(28～42)	(28～42)	
児体重（平均±SD）	2,996.5±478.1	2,765.9±505.8	2,841.4±503.0	n.s.	3,088.8±380.2	2,827.9±479.0	2,882.5±466.5	*
(range)	(1,670～3,670)	(1,403～3,698)	(1,403～3,698)		(1,942～3,556)	(1,774～3,856)	(1,774～3,856)	
分娩様式（複数回答）								
自然分娩	12(63.2%)	30(62.5%)	42(62.3%)	n.s.	14(70.0%)	39(59.1%)	23(62.5%)	n.s.
吸引分娩	1(5.3%)	6(12.5%)	7(11.6%)	n.s.	3(15.0%)	9(13.6%)	12(13.6%)	n.s.
鉗子分娩	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)		0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
帝王切開	3(15.8%)	10(20.8%)	13(18.8%)	n.s.	2(10.0%)	16(24.2%)	18(20.5%)	n.s.
陣痛誘発	2(10.5%)	4(8.3%)	6(10.1%)	n.s.	3(15.0%)	7(10.6%)	10(11.4%)	n.s.
陣痛促進	3(15.8%)	9(18.8%)	12(18.8%)	n.s.	3(15.0%)	5(7.6%)	8(9.1%)	n.s.
その他	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)		0(0.0%)	3(4.5%)	3(4.5%)	n.s.
学歴［2区分］								
中学校・高等学校中退	2(10.0%)	2(4.1%)	4(7.0%)	n.s.	2(10.0%)	0(0.0%)	2(2.3%)	*
高等学校以上	18(90.0%)	47(95.9%)	65(93.0%)		18(90.0%)	65(100.0%)	83(97.7%)	
合　計	20(100.0%)	49(100.0%)	69(100.0%)		20(100.0%)	65(100.0%)	85(100.0%)	

妊娠先行群と結婚後妊娠群との比較　unpaired t-test または χ^2検定
***：$p<0.001$，**：$p<0.01$，*：$p<0.05$　n.s.：not significant

Presented by Medical*Online

表２　家族の背景

	（産後１か月）				（産後３か月）			
	妊娠先行群	結婚後妊娠群	合　計	有意差	妊娠先行群	結婚後妊娠群	合　計	有意差
	（n＝20）	（n＝49）	（n＝69）		（n＝20）	（n＝67）	（n＝87）	
夫（パートナー）年齢								
（平均± SD）	28.3±5.0	32.5±4.3	31.3±4.9	**	29.3±5.7	32.2±4.6	31.2±5.1	*
（range）	（20～41）	（23～43）	（20～43）		（21～45）	（21～45）	（21～45）	
夫（パートナー）の職業								
定職である	16（ 80.0%）	46（ 93.9%）	62（ 89.9%）	n.s.	18（ 90.0%）	64（ 95.5%）	82（ 94.3%）	n.s.
定職でない	2（ 10.0%）	1（ 2.0%）	3（ 4.3%）		2（ 10.0%）	1（ 1.5%）	3（ 3.4%）	
その他	2（ 10.0%）	2（ 4.1%）	4（ 5.8%）		0（ 0.0%）	2（ 3.0%）	2（ 2.3%）	
合　計	20(100.0%)	49(100.0%)	69(100.0%)		20(100.0%)	67(100.0%)	87(100.0%)	
夫（パートナー）の学歴								
中学校・高校中退	2（ 12.5%）	2（ 4.8%）	4（ 6.9%）	n.s.	2（ 12.5%）	1（ 1.6%）	3（ 3.9%）	*
高校卒業以上	14（ 87.5%）	40（ 95.2%）	54（ 93.1%）		14（ 87.5%）	60（ 98.4%）	74（ 96.1%）	
合　計	16(100.0%)	42(100.0%)	58(100.0%)		16(100.0%)	61(100.0%)	77(100.0%)	
家族形態								
核家族	16（ 84.2%）	47（ 97.9%）	63（ 94.0%）	*	17（ 85.0%）	62（ 93.9%）	79（ 90.8%）	n.s.
複合家族	3（ 15.8%）	1（ 2.1%）	4（ 6.0%）		3（ 15.0%）	4（ 6.1%）	8（ 9.2%）	
合　計	19(100.0%)	48(100.0%)	67(100.0%)		20(100.0%)	66(100.0%)	87(100.0%)	

妊娠先行群と結婚後妊娠群との比較　unpaired t-test または χ^2検定
***：$p<0.001$，**：$p<0.01$，*：$p<0.05$　n.s.：not significant

り，妊娠先行群７名（38.9%），対照群20名（41.7%）が実母であり，２群で差は認められなかった。産後３か月では，産後の援助者が夫と答えた人は妊娠先行群11名（55.0%）に対し，対照群55名（83.3%）であり，産後の援助者として夫を挙げていた人は妊娠先行群の方が有意に少なかった（$p<0.05$）。

５．計画妊娠の有無と妊娠の継続理由

妊娠の計画性については，産後１か月では妊娠先行群２名（10.5%），対照群28名（59.6%），産後３か月では妊娠先行群３名（15.0%），対照群49名（75.4%）が計画妊娠であり，２時期とも対照群の母親で計画妊娠が有意に多かった（$p<0.001$）。計画外妊娠における妊娠継続理由として「自分で思いなおした」と答えた母親は，妊娠先行群では産後１か月５名（31.3%），産後３か月４名（25.0%）であり，有意に多かった（Fisher，$p<0.05$）。また，夫では母親と同様の結果であった。

６．妊娠判明時の心理状況（表３）

妊娠判明時の母親の喜びについて，産後１か月では対照群の方が妊娠先行群よりも有意に多く嬉しかった

表３　妊娠判明時の喜び

	（産後１か月）				（産後３か月）			
	妊娠先行群	結婚後妊娠群	合計	有意差	妊娠先行群	結婚後妊娠群	合計	有意差
母　親	（n＝20）	（n＝49）	（n＝69）		（n＝20）	（n＝67）	（n＝87）	
とても嬉しかった	8（ 44.4%）	37（ 77.1%）	45（ 69.1%）	**	14（ 73.7%）	56（ 86.2%）	70（ 83.7%）	n.s.
まあまあ嬉しかった	7（ 38.9%）	11（ 22.9%）	18（ 26.5%）		4（ 21.1%）	6（ 9.2%）	10（ 11.6%）	
あまり嬉しくなかった	3（ 16.7%）	0（ 0.0%）	3（ 4.4%）		1（ 5.3%）	2（ 3.1%）	3（ 3.5%）	
嬉しくなかった	0（ 0.0%）	0（ 0.0%）	0（ 0.0%）		0（ 0.0%）	1（ 1.5%）	1（ 1.2%）	
合　計	18(100.0%)	48(100.0%)	68(100.0%)		19(100.0%)	65(100.0%)	86(100.0%)	
父　親	（n＝17）	（n＝42）	（n＝59）		（n＝16）	（n＝61）	（n＝77）	
とても嬉しかった	11（ 64.7%）	41（ 97.6%）	52（ 88.1%）	***	11（ 68.8%）	58（ 95.1%）	69（ 89.6%）	**
まあまあ嬉しかった	6（ 35.3%）	1（ 2.4%）	7（ 11.9%）		5（ 31.3%）	3（ 4.9%）	8（ 10.4%）	
あまり嬉しくなかった	0（ 0.0%）	0（ 0.0%）	0（ 0.0%）		0（ 0.0%）	0（ 0.0%）	0（ 0.0%）	
嬉しくなかった	0（ 0.0%）	0（ 0.0%）	0（ 0.0%）		0（ 0.0%）	0（ 0.0%）	0（ 0.0%）	
合　計	17(100.0%)	42(100.0%)	59(100.0%)		16(100.0%)	61(100.0%)	77(100.0%)	

妊娠先行群と結婚後妊娠群との比較　χ^2検定
***：$p<0.001$，**：$p<0.01$，*：$p<0.05$　n.s.：not significant

Presented by Medical*Online

と答えており（p＜0.01），夫も同様の結果であった（p＜0.001）。産後1か月では「楽しみ」と答えた母親は，妊娠先行群では9名（47.4%），対照群37名（77.1%）で妊娠先行群の方が有意に少なく（p＜0.05），「悩んだ」と答えた母親が妊娠先行群で7名（36.8%）であり，有意に多かった（p＜0.001）。産後3か月では，母親の妊娠判明時の喜びは両群に有意差が認められなかったが，妊娠先行群の母親で5名が「困った」（25.0%）（Fisher，p＜0.05），5名（25.0%）が「悩んだ」（Fisher，p＜0.01）と答え，有意に多かった。

7．出産満足度（表4）

産後1か月，3か月とも，妊娠先行群における出産満足度は対照群との有意差が認められなかった。

8．対児感情（表5）

産後1か月，3か月ともに，母親の接近得点，回避得点および拮抗指数は対照群との有意差が認められなかった。夫も同様に2時期とも有意差が認められなかった。25歳未満の母親についても，2群に差は認められなかった。

9．母親役割行動（表6-1，表6-2）

母親役割行動の合計得点は，産後1か月と産後3か月においても両群に有意差は認められなかった。下位項目のうち，産後1か月では「児の生活リズムを大人の都合に合わせる」の得点（逆転項目のため，得点が低いほど大人の都合に合わせると捉える）が妊娠先行群の方が有意に低かった（p＜0.05）。この項目について，25歳未満の母親（2.5±0.8）と25歳以上の母親（2.9±0.8）とを比較すると，25歳未満の母親の方が有意に低かった（p＜0.05）。産後3か月では，「授乳や栄養に気をつかっている」の得点が妊娠先行群の方が有意に低かった（p＜0.05）。25歳未満の母親について，合計得点には差は認められなかったが，下位項目の「児にとって自分は重要な存在である」の得点が妊娠先行群の母親では有意に低かった（p＜0.05）。

10．夫婦関係（表7-1，表7-2）

産後1か月では，母親の夫への愛情合計得点は両群に有意差が認められなかった。夫の妻への愛情合計得点は妊娠先行群の方が有意に低く（p＜0.01），産後3か月では，母親の愛情合計得点は妊娠先行群の方が有意に低かった（p＜0.05）。夫では対照群との有

表4　母親の出産満足度

	（産後1か月）				（産後3か月）			
	妊娠先行群（n＝20）	結婚後妊娠群（n＝49）	合　計（n＝69）	有意差	妊娠先行群（n＝20）	結婚後妊娠群（n＝67）	合　計（n＝87）	有意差
満　足	12（63.2%）	29（60.4%）	41（61.2%）	n.s.	13（65.0%）	43（65.2%）	56（65.1%）	n.s.
やや満足	2（10.5%）	13（27.1%）	15（22.4%）		6（30.0%）	11（16.7%）	17（19.8%）	
中　間	4（21.1%）	3（6.3%）	7（10.4%）		1（5.0%）	9（13.6%）	10（11.6%）	
やや不満足	0（0.0%）	2（4.2%）	2（3.0%）		0（0.0%）	2（3.0%）	2（2.3%）	
不満足	1（5.3%）	1（2.1%）	2（3.0%）		0（0.0%）	1（1.5%）	1（1.2%）	
合　計	19（100.0%）	48（100.0%）	67（100.0%）		20（100.0%）	65（100.0%）	86（100.0%）	

妊娠先行群と結婚後妊娠群との比較　χ^2検定
***：p＜0.001，**：p＜0.01，*：p＜0.05　n.s.：not significant

表5　対児感情

	（産後1か月）				（産後3か月）			
	妊娠先行群	結婚後妊娠群	合　計	有意差	妊娠先行群	結婚後妊娠群	合　計	有意差
母　親	（n＝20）	（n＝49）	（n＝69）		（n＝20）	（n＝67）	（n＝87）	
接近得点	29.7± 9.0	30.7± 8.0	30.7± 8.3	n.s.	31.9± 6.2	30.5± 6.6	30.9± 6.5	n.s.
回避得点	7.9± 5.9	7.7± 5.2	7.7± 5.3	n.s.	7.2± 3.6	6.0± 4.0	6.3± 3.9	n.s.
拮抗指数	19.5±19.7	27.7±20.7	25.2±20.3	n.s.	24.1±12.1	21.2±16.3	21.8±15.4	n.s.
父　親	（n＝17）	（n＝42）	（n＝59）		（n＝16）	（n＝61）	（n＝77）	
接近得点	27.0± 9.5	29.0± 6.9	28.4± 7.6	n.s.	30.6± 8.0	27.9± 6.9	28.4± 7.2	n.s.
回避得点	10.1± 6.5	8.0± 4.8	8.6± 5.4	n.s.	7.1± 5.1	7.1± 5.4	7.1± 5.3	n.s.
拮抗指数	41.9±34.6	28.8±19.8	32.4±25.2	n.s.	23.6±17.2	26.7±22.1	26.0±21.1	n.s.

妊娠先行群と結婚後妊娠群との比較　unpaired t-test
***：p＜0.001，**：p＜0.01，*：p＜0.05　n.s.：not significant

Presented by Medical*Online

表6－1　母親役割行動　（産後1か月の母親）

	妊娠先行群（n＝20）	結婚後妊娠群（n＝49）	合計（n＝69）	有意差
① 目を見つめて話しかける	3.80±0.12	3.69±0.07	3.72±0.06	n.s.
② 児を抱きしめる	3.90±0.07	3.75±0.08	3.79±0.06	n.s.
③ 児の笑顔を見ると嬉しくなる	3.95±0.05	3.98±0.02	3.97±0.02	n.s.
④ 授乳や栄養に気をつける	3.60±0.13	3.65±0.08	3.63±0.07	n.s.
⑤ 自分から児に声をかける	3.85±0.08	3.80±0.07	3.81±0.05	n.s.
⑥ 一緒に過ごすことは楽しい	3.75±0.12	3.72±0.07	3.73±0.06	n.s.
⑦ 児のためなら何でもしたい	3.70±0.16	3.83±0.06	3.79±0.06	n.s.
⑧ 児の気持ちを理解したい	3.90±0.07	3.85±0.05	3.87±0.04	n.s.
⑨ 児がそばに居ないと気になる	3.55±0.17	3.57±0.09	3.57±0.08	n.s.
⑩ ぐずる時なだめられる	3.00±0.16	3.02±0.09	3.01±0.08	n.s.
⑪ 児が泣くとすぐにあやす	3.55±0.11	3.53±0.09	3.54±0.07	n.s.
⑫ 児を預けると気になる	3.55±0.20	3.56±0.08	3.56±0.08	n.s.
⑬ 児にとって自分は重要な存在	3.70±0.13	3.73±0.08	3.72±0.07	n.s.
⑭ 児のそばに居てあげたい	3.60±0.18	3.78±0.07	3.72±0.07	n.s.
⑮ 自分のしたいことを邪魔する†	2.95±0.17	2.83±0.13	2.86±0.10	n.s.
⑯ 児の生活リズムを都合に合わせる†	2.55±0.19	3.04±0.11	2.90±0.10	*
⑰ 児よりも自分を優先する†	2.80±0.17	3.17±0.10	3.01±0.09	n.s.
合　計	59.70±1.44	60.41±0.75	60.19±0.68	n.s.

妊娠先行群と結婚後妊娠群との比較　unpaired t-test　***：p＜0.001，**：p＜0.01，*：p＜0.05
値は平均±SE　†：逆転項目　n.s.：not significant

表6－2　母親役割行動　（産後3か月の母親）

	妊娠先行群（n＝20）	結婚後妊娠群（n＝67）	合計（n＝87）	有意差
① 目を見つめて話しかける	3.85±0.11	3.89±0.05	3.88±0.04	n.s.
② 児を抱きしめる	3.90±0.07	3.87±0.04	3.87±0.04	n.s.
③ 児の笑顔を見ると嬉しくなる	4.00±0.00	3.96±0.03	3.97±0.02	n.s.
④ 授乳や栄養に気をつける	3.25±0.14	3.61±0.07	3.52±0.07	*
⑤ 自分から児に声をかける	3.90±0.07	3.94±0.03	3.93±0.03	n.s.
⑥ 一緒に過ごすことは楽しい	3.75±0.10	3.81±0.05	3.79±0.05	n.s.
⑦ 児のためなら何でもしたい	3.70±0.11	3.73±0.06	3.72±0.05	n.s.
⑧ 児の気持ちを理解したい	3.90±0.07	3.82±0.05	3.84±0.04	n.s.
⑨ 児がそばに居ないと気になる	3.70±0.11	3.54±0.07	3.57±0.06	n.s.
⑩ ぐずる時なだめられる	3.55±0.19	3.66±0.06	3.63±0.06	n.s.
⑪ 児が泣くとすぐにあやす	3.45±0.11	3.55±0.06	3.52±0.05	n.s.
⑫ 児を預けると気になる	3.75±0.10	3.56±0.08	3.60±0.06	n.s.
⑬ 児にとって自分は重要な存在	3.85±0.08	3.82±0.05	3.83±0.04	n.s.
⑭ 児のそばに居てあげたい	3.80±0.09	3.81±0.05	3.80±0.04	n.s.
⑮ 自分のしたいことを邪魔する†	2.95±0.21	3.06±0.11	3.03±0.10	n.s.
⑯ 児の生活リズムを都合に合わせる†	2.60±0.20	2.91±0.10	2.84±0.09	n.s.
⑰ 児よりも自分を優先する†	3.30±0.15	3.25±0.09	3.26±0.08	n.s.
合　計	61.00±0.83	61.60±0.52	61.46±0.44	n.s.

妊娠先行群と結婚後妊娠群との比較　unpaired t-test　***：p＜0.001，**：p＜0.01，*：p＜0.05
値は平均±SE　†：逆転項目　n.s.：not significant

意差は認められなかった。25歳未満の母親の愛情合計得点は妊娠先行群で有意に低かった（p＜0.05）。夫の愛情得点も同様に妊娠先行群の方が低かった（p＜0.01）。

Ⅳ．考　　察

1．対象者および家族の背景について

本研究で，妊娠先行群の年齢は母親，夫ともに対照群よりも有意に若く，妊娠先行群の母親の学歴は対照群に比べて「中学校卒業・高校中退」の人が多い傾向にあった。「出生に関する統計」の概況の報告では[1]，

Presented by Medical*Online

表7-1　夫婦関係　（産後1か月）

	妊娠先行群	結婚後妊娠群	合計	有意差
母　親	(n＝20)	(n＝49)	(n＝69)	
恋人同士の気持ち	5.0± 1.7	5.0± 1.5	5.0± 1.5	n.s.
何でもしてあげたい	5.0± 1.5	5.5± 1.4	5.4± 1.4	n.s.
愛していると実感	5.8± 1.3	6.0± 1.1	5.9± 1.2	n.s.
出会うために生まれた	4.5± 1.8	5.2± 1.5	5.0± 1.6	n.s.
どんなことでも許せる	3.7± 1.8	4.0± 1.4	4.0± 1.5	n.s.
魅力的な男性	5.3± 1.2	6.0± 1.1	5.8± 1.2	*
気持ちを理解してくれる	4.0± 1.7	4.6± 1.7	4.5± 1.7	n.s.
夫の幸せが最大の関心	4.5± 2.1	5.4± 1.5	5.2± 1.7	n.s.
夫の味方でいたい	5.8± 1.5	5.7± 1.4	5.7± 1.4	n.s.
人間として深く尊敬	5.5± 1.7	6.1± 1.0	5.9± 1.3	n.s.
合　計	48.6±12.4	53.6±10.4	52.4±11.2	n.s.
父　親	(n＝17)	(n＝42)	(n＝59)	
恋人同士の気持ち	5.2± 1.4	5.7± 1.2	5.5± 1.3	n.s.
何でもしてあげたい	5.8± 0.9	6.4± 0.8	6.2± 0.9	*
愛していると実感	5.9± 0.9	6.5± 0.7	6.3± 0.8	*
出会うために生まれた	4.9± 1.5	5.7± 1.4	5.5± 1.5	n.s.
どんなことでも許せる	3.9± 1.9	5.1± 1.3	4.7± 1.6	*
魅力的な女性	5.6± 1.1	6.3± 0.8	6.1± 0.9	**
気持ちを理解してくれる	5.1± 1.0	5.3± 1.0	5.2± 1.0	n.s.
妻の幸せが最大の関心	5.5± 1.2	6.2± 0.8	6.0± 1.0	**
妻の味方でいたい	5.8± 1.0	6.6± 0.5	6.4± 0.8	**
人間として深く尊敬	5.7± 1.4	6.2± 0.8	6.1± 1.0	n.s.
合　計	53.4± 8.8	60.1± 6.1	58.1± 7.6	**

妊娠先行群と結婚後妊娠群との比較　unpaired t-test　***：$p<0.001$，**：$p<0.01$，*：$p<0.05$
値は平均± SD　n.s.：not significant

表7-2　夫婦関係　（産後3か月）

	妊娠先行群	結婚後妊娠群	合計	有意差
母　親	(n＝20)	(n＝67)	(n＝87)	
恋人同士の気持ち	4.6± 1.5	4.6± 1.6	4.6± 1.6	n.s.
何でもしてあげたい	5.0± 1.2	5.2± 1.3	5.1± 1.3	n.s.
愛していると実感	5.3± 1.3	5.7± 1.3	5.5± 1.4	n.s.
出会うために生まれた	4.6± 1.7	5.0± 1.4	4.8± 1.5	n.s.
どんなことでも許せる	3.4± 1.6	4.1± 1.5	3.9± 1.6	n.s.
魅力的な男性	5.0± 1.4	5.8± 1.1	5.6± 1.3	*
気持ちを理解してくれる	3.4± 1.6	4.4± 1.6	4.2± 1.7	*
夫の幸せが最大の関心	4.9± 1.4	5.2± 1.3	5.1± 1.4	n.s.
夫の味方でいたい	5.4± 1.2	5.9± 1.1	5.8± 1.3	n.s.
人間として深く尊敬	5.2± 1.6	5.9± 1.2	5.7± 1.4	*
合　計	45.8± 9.5	51.7±10.6	50.0±11.3	*
父　親	(n＝16)	(n＝61)	(n＝77)	
恋人同士の気持ち	5.3± 1.4	5.1± 1.4	5.1± 1.4	n.s.
何でもしてあげたい	6.0± 1.1	5.9± 0.9	5.9± 1.0	n.s.
愛していると実感	6.4± 0.8	5.9± 1.0	6.0± 0.9	n.s.
出会うために生まれた	5.4± 1.2	5.1± 1.5	5.2± 1.5	n.s.
どんなことでも許せる	4.6± 1.7	4.5± 1.6	4.6± 1.6	n.s.
魅力的な女性	6.3± 0.7	5.8± 1.0	5.9± 0.9	n.s.
気持ちを理解してくれる	5.1± 1.3	5.1± 1.3	5.1± 1.3	n.s.
妻の幸せが最大の関心	6.4± 0.7	5.9± 1.0	6.0± 1.0	n.s.
妻の味方でいたい	6.4± 0.6	6.2± 1.0	6.2± 0.9	n.s.
人間として深く尊敬	6.0± 0.9	5.9± 0.9	5.9± 0.9	n.s.
合　計	58.0± 6.1	55.5± 8.5	56.0± 8.1	n.s.

妊娠先行群と結婚後妊娠群との比較　unpaired t-test　***：$p<0.001$，**：$p<0.01$，*：$p<0.05$
値は平均± SD　n.s.：not significant

Presented by Medical*Online

2005年には妊娠先行結婚は「15～19歳」で8割，「20～24歳」で6割，「25～29歳」で2割，「30歳以降」で1割となっており，年齢層が若くなるほど多く，妊娠期の研究[17]とも同様の結果となった。

出産週数や妊婦健診受診回数，児の体重については妊娠先行群でも対照群でも差がなかった。対象は異なるが，望まない妊娠では早産などのリスクとは関連がなかったという報告[18]と一致している。福田らの調査では，望まない妊娠をした妊婦はそうでない妊婦に比較して妊婦健診回数や母親学級への参加が少なかったが[2]，本調査では出産までに受診した妊婦健診回数は2群で差がなかった。これは，妊娠期の調査[17]と同様に本研究が初産婦のみを対象としていることや妊娠先行群であっても望んだ妊娠の割合が多いことが考えられる。よって，妊娠先行群であっても定期的に妊婦健診を受診し母子の健康管理を行っていることが明らかになった。

先行文献では，妊娠期の調査で妊娠先行群では対照群よりも夫が定職についている割合が低かったが[17]，本研究では産後，妊娠先行群と対照群で夫の就労状況に差は認められなかった。これは，夫の就労状況が産前と産後で変化したことも考えられ，家庭を経済的な面で支えていくためにも，産後1ヵ月や産後3ヵ月には妊娠先行群では定職に就いた夫が増加したために差がなくなった可能性も示唆される。

2．援助者について

産後1ヵ月における妊娠出産，育児に対する援助者は2群に差はなく，「援助者が誰もいない」人はいなかったことから，妊娠先行群でも援助者がいることが確認された。これは妊娠期の調査と同様の結果であった[17]。

また，産後3ヵ月では産後の援助者が妊娠先行群は実母と答えた人が有意に多く，対照群では夫と答えた人が有意に多かった。家族形態に差がないにもかかわらず，対照群はより多く夫を援助者にあげている一方，この時期に妊娠先行群の妻の夫婦関係合計得点が対照群より低かった。これらのことから，この時期の妊娠先行群の母親の夫に対する愛情が低下していることとも関連していることが示唆される。また，対象は異なるが10代で出産した母親の最も多いサポート源は実母であり，情緒的サポートが最も多く手段的サポートは比較群より有意に高く，夫のサポートは実母や友人よりも低い結果となったことが報告されている[14]。

3．結婚の契機および妊娠判明時の気持ちについて

妊娠がわかった時，妊娠先行群の母親の方が嬉しいと感じていることが少なかったことは，先行研究[19]と同様の結果となった。しかし，産後3ヵ月の母親の妊娠判明時の気持ちは対照群との差が認められなかった。これは，時期によって妊娠判明時の心理の捉え方が変化した可能性が考えられる。

妊娠判明時の心理では，近藤ら[19]の，結婚先行妊婦で「戸惑った・困った」人が有意に多かったとの結果と同様であった。この心理は，意図していなかった妊娠であったため，今後のことなどについて思い悩む気持ちが生まれるためだと考えられる。「不安になった」は両群ともに約4割と多く差がなかったことは，妊娠が計画的で意図したものであってもそうでなくても，両者とも共通して抱く気持ちであることが明らかになった。

4．対児感情について

児への肯定感情は，産後の2時期とも2群に差が認められず，産後の育児期において妊娠先行群でも児に対する愛着は差がないことが本研究で確認された。妊婦を対象とした近藤らの調査[19]や盛山の研究[17]と同様の結果であるが，妊娠先行群の母親の育児期の児への愛着に差がないことが本研究で初めて明らかにされた。

出産後の生活は母親が予想していたものと異なり，育児や子ども中心の生活となるとの報告もある[20]。また大村らによると，特に初産婦，妊娠を希望しなかった母親，育児不安をもつ母親においては，生後3ヵ月の時期は愛着形成の危機に陥りやすかった[9]。

本研究では，対照群の拮抗指数は回避得点と同様の傾向がみられた。妊娠先行群で花沢の調査[13]と一致していた。産後1ヵ月よりも産後3ヵ月の方が育児生活にも慣れ，身体的にも精神的にも余裕が出てくることにより児への肯定的な思いは持続し，否定的な思いが低下する傾向にあるのではないかと考える。よって，結婚と妊娠の時期にかかわらず，児への愛着が高まり育まれており，産後の母子関係も良好に形成されていくであろうことが明らかになった。

Presented by Medical*Online

5．母親役割行動について

妊娠先行群の母親役割行動は，2時期のいずれも対照群との大きな差は見られなかった。妊娠先行群の母親は対照群と同様に母親としての自覚や責任を感じており，出産育児に向けて母親役割意識が高まり，母親役割行動もとれていることが明らかになった。

しかし，産後1か月では，妊娠先行群の方が赤ちゃんの生活リズムを自分の都合に合わせる傾向があることが明らかになった。対象者の年齢は異なるが，10代で出産した母親の母親行動は対照群に比べ，子どもに対する献身的な気持ちを持つ反面，子どもより自分のことを優先しがちであるとの報告があり[14]，本研究で，25歳未満の母親についても同様の結果となったことから，若い年齢の母親の傾向であることが推察された。

また，産後3か月では妊娠先行群の方が赤ちゃんの授乳や栄養に気をつかっていない傾向にあることも明らかになった。

これらのことから，2群で全体的な母親役割行動には大差がないが，妊娠先行群では産後のいくつかの育児行動に不十分な点もあることが明らかになった。そのため，特に妊娠先行結婚をした夫婦に対し，妊婦健診や両親学級の場で母親のみならず夫や家族にも妊娠中から産後の育児について夫婦で話し合うなど，協力体制を整えられるよう働きかけていくことが重要である。また，産後では母親に対し，産後の退院指導時に児との生活について児の生活リズムが確立するまでは児に合わせて生活するよう指導することや，電話訪問や1か月児健診時に授乳や栄養の指導を十分にすることが重要であると考える。

さらに，25歳未満の母親について，児にとって自分は重要な存在であるという認識が低いことは，母親自身以外の支援者により多くの育児を任せ頼っていることも影響しているのではないかと示唆される。そのため，母親としての自覚と責任へのより強い認識と，主体的に児を受け入れることの大切さ，自立した母親になることの意義を妊娠期から育児期を通して継続的に伝えていく必要があると考えられる。

6．夫婦関係について

妊娠先行群の母親における夫への愛情は，出産後3か月時には対照群よりも低いことが明らかになった。夫の妻への愛情に関して，産後1か月では対照群の夫は妊娠先行群よりも有意に高く，産後3か月時には2群に差は認められなかった。これは，対照群の夫では，出産を経て育児生活を開始した産後1か月の時期に，妻に対する愛情が一時的に高かったためと考えられる。

Coxらは，親になる前後で，計画外妊娠は計画妊娠よりも結婚に対する満足度が下がる傾向が夫婦ともにあったことを報告している[21]。また，Cowanは子どもの誕生によって結婚の満足度は夫婦ともに低下し，結婚の質は親になると悪化したと指摘している[22]。本研究でも，妊娠先行群では妻の愛情得点は産後に低く，同様の傾向が見られた。

小野寺によると，夫婦の親密性は親になって2年後に男女共に顕著に低くなり，その後2～3年の変化はなかったとしている[23]。中澤らは，配偶者への満足度，結婚生活の評価，夫婦関係の親密性の3点について出産前後でみると，いずれも妻・夫ともに出産後で低下し，夫以上に妻の低下の度合いが大きかったと報告している[24]。子どもを持つと育児に専念したり児と過ごしたりする時間が増えるため，妻や夫がお互いに関心を向けることが減少する結果，夫婦の親密性は産後やや希薄となると推測される。

夫婦の親密性の低下には，夫の場合妻自身のイライラ度合いが強いことや夫の労働時間が長いこと，妻の場合夫の育児参加が少ないことや子どもが育てにくいことが要因であることが報告されている[23]。金井は夫に対する評価の高い母親は，母親アイデンティティと母親役割に対する肯定的感情が強かったことを報告している[25]。また，数井らは，母親評価による夫婦関係や親役割ストレスは，子どもの愛着の発達と関連していたと述べている[26]。本研究で妊娠先行群の産後の母親における夫への愛情が対照群よりも低かったことは，母親役割や子どもの愛着にも影響を及ぼす可能性があることが示唆された。

これらのことから，特に妊娠先行結婚をした夫婦に対して，夫が早く帰宅して育児に参加したり，妻の話を傾聴して育児の閉塞感を和らげたりすることなどを，両親学級等を利用して夫やその家族に助言していくことが大切である。

とりわけ25歳未満の夫婦および核家族では，夫婦お互いの協力はもちろん，夫からの理解を高め，援助や協力を得るためにも妊娠期から産後も継続して夫を含めた関わりが大切であると考えられる。

Presented by Medical*Online

7．本研究の限界と今後の課題

本研究では，母乳育児や母児同室等の児への愛着の要素と考えられる因子を質問紙に含めておらず，その点は不明である。また，大阪市内の1病院1施設，1地域での調査であり，一般化することは難しいため，今後より広範囲の地域で調査することが必要であると考えられる。

V．結　　論

1．妊娠先行群の母親と夫の年齢は，対照群よりも有意に若かった。
2．妊婦健康診査受診回数，分娩様式，出産満足度は，妊娠先行群と対照群とに差はなかった。
3．妊娠先行群にも妊娠出産の援助者がいた。その9割以上が対照群と同様に「実母」か「夫」であった。産後3か月では，「実母」からの援助が対照群よりも有意に多かった。
4．妊娠先行群の母親の妊娠判明時の喜びは対照群よりも少なく，「悩んだ」・「困った」人がより多かった。
5．妊娠先行群の産後の児への愛着は対照群との差がなかった。
6．妊娠先行群の産後の母親役割行動は，対照群との大きな差はなかった。ただし，産後1か月では対照群よりも児の生活リズムを大人の都合に合わせる傾向があり，産後3か月では児の授乳や栄養に気をつかうことが対照群よりも少なかった。
7．妊娠先行群の母親の夫への愛情は産後低かった。特に産後3か月では対照群の妻よりも有意に低かった。また，妊娠先行群の夫の愛情は産後1か月と産後3か月で差はなかった。一方，対照群の夫の愛情は産後1か月では妊娠先行群よりも有意に高かった。
8．25歳未満の妊娠先行群に着目すると，母親では対児感情および母親役割行動は対照群との差はないが，夫婦関係は夫，妻ともに対照群よりも低く良好でなかった。

謝　辞

本研究を進めるにあたり，貴重なお時間を割いて調査にご協力いただきましたお母様，お父様に深く感謝申し上げます。また調査の際にご高配いただきました淀川キリスト教病院椋棒正昌病院長，外来責任者東百合子課長，産科病棟高尾恭子課長および産科・婦人科・小児科外来のスタッフの皆様，ならびに東淀川区保健福祉センター医務保健長水上健治先生，保健主幹山元早苗保健師およびスタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。

なお，本研究は大阪大学大学院医学系研究科博士前期課程修士論文の一部である。また，本研究は第56回日本小児保健学会において発表した。

文　　献

1）厚生労働省．平成17年度「出生に関する統計」の概況における人口動態統計特殊報告．(http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/syussyo05/index.html)
2）福井知美，上林靖子，中田洋二郎，他．望まない妊娠で生まれた児と母親の精神保健に関する研究．乳幼児医学・心理学研究　1999；8（1）：37-52.
3）Pulley LV, Klerman LV, Hao T, et al. The Extent of Pregnancy Mistiming and Its Association with Maternal Characteristics and Behaviors and Pregnancy Outcomes. Perspectives on Sexual and Reproductive Health 2002；34（4）：206-211.
4）Aquilino ML, Losch ME. Across the Fertility Lifespan — Desire for Pregnancy at Conception —. The American Journal of Maternal/Child Nursing 2005；30（4）：257-262.
5）Green DC, Gazmararian JA, Mahoney LD, et al. Unintended Pregnancy in a Commercially Insured Population. Maternal and Child Health Journal 2002；6（3）：181-187.
6）Baydar N. Consequences for Children of Their Birth Planning Status. Family Planning Perspectives 1995；27（6）：228-234,245.
7）Grussu P, Quatraro RM, Nasta MT. Profile of Mood States and Parental Attitudes in Motherhood：Comparing Women with Planned and Unplanned Pregnancies. BIRTH 2005；32（2）：107-114.
8）上井稔子，中山栄純，佐藤千史．望まない妊娠に関連する要因について—大阪市浪速区の病院での調査から—．助産婦雑誌　1997；51（12）：72-76.
9）大村典子，光岡攝子．妊娠期から生後1年までの児に対する母親の愛着とその経時的変化に影響する要因．小児保健研究　2006；65（6）：733-739.
10）Goto A, Yasumura S, Yabe J, et al. Association of Pregnancy Intention with Parenting Difficulty in Fukushima, Japan. Journal of Epidemiology 2005；

Presented by Medical*Online

15 (6)：244-246.
11) 樋口広美，坪川トモ子，高橋裕子，他．育児実態調査から見た子ども虐待のハイリスク要因―子ども虐待を早期発見・予防するために―．保健師ジャーナル 2004；60 (10)：1006-1013.
12) 船越和代，白石裕子，中添和代．母親の育児に関する意識と虐待傾向との関連．地域環境保健福祉研究 2001；5 (1)：18-25.
13) 花沢成一．母性心理学．第1版．東京：医学書院，1992.
14) 平尾恭子，上野昌江．10代で出産した母親の母親行動とソーシャルサポートとの関連．小児保健研究 2005；64 (3)：417-424.
15) 菅原ますみ，八木下暁子，詫摩紀子，他．夫婦関係と児童期の子どもの抑うつ傾向との関連―家族機能および両親の養育態度を媒介として―．教育心理学研究 2002；50 (2)：129-140.
16) 菅原ますみ．夫婦間の親密性の評価―自記入式夫婦関係尺度について―．精神科診断学 1997；8 (2)：155-166.
17) 盛山幸子，島田三恵子．妊娠先行結婚と妊婦の対児感情・母親役割獲得・夫婦関係との関連．日本助産学会誌 2008；22 (2)：222-232.
18) Messer LC, Dole N, Kaufman JS, et al. Pregnancy Intendedness, Maternal Psychosocial Factors and Preterm Birth. Maternal and Child Health Journal 2005；9 (4)：403-412.
19) 近藤由佳里，大庭智子，田中智子，他．「できちゃった結婚」妊婦における母性不安と母性意識・愛着形成について―計画妊娠の初産婦と比較して―．母性衛生 2005；45 (4)：518-529.
20) 片桐麻州美，松岡 恵．褥婦の退院後の生活イメージとその形成にかかわる要因の分析 (1)．日本助産学会誌 2000；14 (1)：14-23.
21) Cox MJ, Paley B, Burchinal M, et al. Marital Perceptions and Interactions Across the Transition to Parenthood. Journal of Marriage and the Family 1999；61：611-625.
22) Cowan CP, Cowan PA. When partners become parents：the big life change for couples. London：Lawrence Erlbaum Associates. 1992 (カップルが親になるとき．山田昌弘，開内文乃訳．第1版．東京：勁草書房，2007).
23) 小野寺敦子．親になることにともなう夫婦関係の変化．発達心理学研究 2005；16 (1)：15-25.
24) 中澤智恵，倉持清美，田村 毅，他．出産・子育て体験が親の成長と夫婦関係に与える影響 (4) ―第一子出生後の夫婦関係の変化と子育て―．東京学芸大学紀要6部門 2003：55；111-122.
25) 金井幸子．乳幼児期の子どもを持つ母親の自己評価と夫に対する評価．小児保健研究 2003；62 (5)：552-557.
26) 数井みゆき，無藤 隆，園田菜摘．子どもの発達と母子関係・夫婦関係 幼児をもつ家族について．発達心理学研究 1996；7 (1)：31-40.

〔Summary〕

The purpose of this study is to explore the characteristics of postpartum women with conceptions that preceded marriage and described their feelings toward babies, maternal behavior and marital relations. A cross-sectional study was conducted by self-reported questionnaire among 69 women in a month postpartum period and 59 husbands of those women, and among 87 women in three months postpartum period and 59 husbands of those women. As a result, there was no significant difference between the two groups for feeling toward babies and overall maternal behavior score. But in the subclassification, the premarital pregnancy group significantly has a greater tendency to suit the life rhythm of baby to the convenience of the mother than the control group in a month postpartum period, and they were significantly less consciencious about breast-feeding and nutrition than the control group in three months postpartum period. Wives in the premarital pregnancy group significantly showed on lower marital relations score than that in the control group. Particularlly among women under 25 years old, both wives and their husbands in the premarital pregnancy group significantly showed on lower marital relations score than that in the control group.

〔Key words〕
pregnancy preceding marriage, postpartum mother, feelings toward babies, maternal behavior, marital relations

Presented by Medical*Online